

刊夕日七十二月九

常磐毎日新聞

定価 一部全紙一ヶ月五十五銭 三ヶ月一圓四角 半年二圓二角 一年三圓八角
 廣告料 五號十二字一行情五銭 五號一行情三銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社 常磐毎日新聞社

小學兒童の 清書と感想文

簡易保險記念日
 事業として

平野便局長 佐藤守節

簡易保險事業は大正五年十月一日に創設せられてから、今年で十九周年に當つて居りますが、去る五月其の保険金額三十億圓を突破し、全國民總ての家庭の爲めに、その準備財産を作り上げつゝあるのであります。御承知の如く、簡易保險事業の現在實行してゐるのはこの準備財産により單に契約満期又は死亡の場合に、一定の保険金を支拂ふに止らず、被保險者の爲めに健康相談所その他の保健衛生施設を實行し、又は巨額の積立金に依つて各種の社會政策的施設の發達を促進する等のことによつて、社會の福利増進に貢献してゐるのでありますから、簡易保險制度を利用することは、一面に於て自らの家庭生活の安定幸福を圖る爲めに必要な備へを爲すことであるばかりでなく、同時に社會公衆の利益幸福の爲めにも盡すこととなるのであります。簡易保險が斯く發達致したことは、獨りこの業に携はる者のみならず、社

會の爲めに御同慶とする所でありませう。
 来る十月一日はこの簡易保險の創始記念日に當りますので、第二の國民たる小學兒童各位を通じて一層簡易保險と云ふものに御理解を深くして頂きたいと云ふ考へから、縣及小學校當局の御援助御協力を得て、管内七縣下の小學兒童から簡易保險に關する清書と感想文とを募集すること、致し

★0000000000
 ○明日の献立○
 ○0000000000

【朝】インスタントポスト
 ム トースト マー
 マレード

【晝】照煮一切い
 ささみたくわん

【晚】天婦羅 いか 海老
 割せうゆ さうりも
 み 花かつを

たのであります。感想文は簡易保險局の催しでありませうが、清書の方は當仙臺逓信局の独自の試みでありませう。何しろ管内七縣下約四千の小學校から優秀者一校十二人づつ郵便局で集め、その中から又局長會幹事區、縣と順次審査選出し最後に逓信局で管内最優秀者を選定發表することゝなる譯で、中々大がかりであり又初めての試みであるの

刊日

で、それだけに縣及學校當局は勿論、管内全學童並御父兄各位並びに新聞社各位の御協力御援助を切に御願ひする次第であります。尙當地平郵便局並に同局區内無集配五局が聯合の上平町好間村、平窪村、神谷村、飯野村及高久村各小學校から優秀清書約三百枚を集め四丁目「マルトモホール」に於て十月一日午前九時から午後五時迄展覽會を開催する筈であるから一般の參觀を歓迎します」云々

廣告

看護婦急派
 求めに應じます

平看護婦會
 電話三七〇


一冊の代金で
 御希望通りな

五冊の雑誌が
 自由に讀める

川崎巡回文庫
 電話六三〇番
 (申込次第規則書進呈)

冬の通學服賣出

中學生用 六号 四四〇〇
 國防色 七号 四四二〇
 黒小倉服 特A六号 三三〇〇ヨリ
 特A六号 三三〇〇ヨリ
 別注文 國防色 五五〇〇均一
 特A黒小倉 六四二〇均一



平野 店服洋やかふ
 三ツ平電

開院 五十嵐産科醫院

平町新川町一二
 醫學博士 五十嵐雄二
 (入院應需) 電話三七〇番

石炭一〇〇パーセント

サーヴキス
 時節柄 値下げ!
 特等塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢
 一等塊 同 金參拾五錢
 品質が優良 デナケレバ 値段バカリ安クトモ結局
 目方が正確 (高イモノニナリマス)
 此の点は當店を絶対に御信用願ひます
 ◎市内は一俵より配達致します
 電話三七番
 阿部石炭商店

店主が店員を連れて行かれます
 正シイ食堂
 正シイ喫茶
 正シイ酒場
 平・田町
 レストサロン
 電話三五二番

木村病院

平町新川町十九
 病室完備 入院隨意
 電話一六四番

産科 院長 木村寅次郎
 婦人科 醫學博士 内木宗八
 外科 藥劑師 立番彌一

株式賣買 三共商事

大町 電話三六〇番

宮温湯

子宮病根切藥
 暑い、と蒸着して居る間に腰が左様な方は子宮温湯の藥宮温湯をお奨め致します。冷性を覺える人、なが血、白血でお困りの方は是非御試し下さい
 平町古銀治町一〇縣社の下
 阿康藥局
 電話 四六番
 振替口座東京三〇〇五番

激烈な戦跡を語る各派得票数

| 町村別 | 有権者数 | 投票数 | 連政 | 小野友 | 赤津一 | 關内 | 政友會 | 野民 | 草政 | 野小 | 黨松 | 得民 | 政黨 | 養正會 | 齊藤 | 投無 | 票効 |
|-----|--------|-------|-------|-----|-----|----|------|----|----|----|------|------|----|-----|----|----|----|
| 飯野 | 四、三三三 | 三、七〇一 | 五九五 | 一六二 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 八五 | 五三 | 三〇 | 一、四九 | 一、三九 | 七五 | 二五 | | | 二五 |
| 鹿島 | 三、九〇〇 | 三、四四〇 | 一〇〇 | 五〇 | 〇 | 二二 | 二、三三 | 九〇 | 六〇 | 二〇 | 一、五二 | 一、三九 | 三〇 | 六 | | | 二五 |
| 江久 | 一、二五〇 | 一、〇三二 | 一〇三 | 四六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 豊井 | 七〇〇 | 六〇五 | 一五四 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 高谷 | 五五〇 | 四四七 | 一七〇 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 夏井 | 五〇〇 | 四〇五 | 一七〇 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 神谷 | 七〇〇 | 五八一 | 一七〇 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 草野 | 九三〇 | 七九三 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 大倉 | 一、四三〇 | 一、三二一 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 大野 | 一、四三〇 | 一、三二一 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 平井 | 一、三九〇 | 一、〇九〇 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 赤川 | 一、三九〇 | 一、〇九〇 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 上川 | 九三〇 | 七九三 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 下川 | 九三〇 | 七九三 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 三澤 | 八七〇 | 七三〇 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 永澤 | 八七〇 | 七三〇 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 箕輪 | 七六〇 | 六二〇 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 好間 | 二、四三〇 | 一、九〇三 | 五五五 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 内郷 | 四、七五五 | 三、八〇〇 | 一、一五五 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 湯本 | 二、六八四 | 二、三〇八 | 四三三 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 磐野 | 一、二〇五 | 一、〇二二 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 上野 | 九三〇 | 七九三 | 二〇〇 | 一〇 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 入野 | 八五〇 | 六九五 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 田部 | 一、〇七〇 | 五九五 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 川部 | 七六〇 | 五九五 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 勿来 | 一、三〇七 | 一、三二一 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 山田 | 六九六 | 五五五 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 植田 | 六九六 | 五五五 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 渡邊 | 一、七七一 | 一、三二一 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 玉泉 | 四八八 | 三九七 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 小名濱 | 八三三 | 六六一 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 玉泉 | 四八八 | 三九七 | 一〇二 | 一六 | 一六 | 二二 | 二、三三 | 二七 | 一七 | 八 | 二、四 | 二、四 | 三九 | 三 | | | 二五 |
| 合計 | 四〇、九六六 | 三、七〇一 | 五九五 | 一六二 | 一〇 | 二二 | 二、三三 | 八五 | 五三 | 三〇 | 一、四九 | 一、三九 | 七五 | 二五 | | | 二五 |

郡民總意の輝ける代表

肅正下の戦績

郡民注視の裡に廿五日執行された縣會議員選挙は廿六日夜内郷村を最後に十時頃迄全部開票され裁きの鐘は左記の如く郡民總意の輝ける代表者を選出した。肅正下の今次戦績は政友派一名落選の悲運を見たが従來の民政の壓倒的得票を一蹴して政友派の躍進目覺ましく地盤を全回と全く逆轉して民政の堅陣に追迫新興の養正會候補の落選は政民二大政黨の地盤の強固さを物語つてゐる。

- 當選 五、四九五 農 業 草野三郎(民再)
- 同 四、八一五 油 業 關内正一(政新)
- 同 四、六一二 農 業 小松 章(民新)
- 同 四、四二七 酒造業 小野晋平(政元)
- 同 四、二四四 新聞業 連沼龍輔(政新)
- 同 四、〇六五 自動車業 野崎滿藏(民再)
- 次点 三、二九六 吳服商 赤津庄兵衛(政新)
- 同 一、三一九 醸造業 齊藤 晃(養新)

流石は平町

棄権率が少い
今回の縣議選挙で郡下で棄権率の最も少くないのは平町で期日現在有権者三千九百九十四名に對し投票三千七百一票、棄権は僅か七分

開票騒ぎの直後

製綿所から發火

選挙の開票に血を沸かした騒ぎも一段落を告げた昨廿六日午後十一時半頃平町南町四二鈴木重太郎方の製綿所から發火し火は忽ち工場内の綿原料品及び機械類を焼いて附近に延焼せんとしたのを急を聞いて駆け付けた自動車消防隊及び地元火防組員等が同十二時二十分工場一棟を全焼したのみで鎮火するを得たが損害原因等は目下平署で取調中尙同工場は當日午後六時に作業を終へて既に人氣のない處から發火したので漏電か職工の煙草の吸殻でないかと云はれて居る

一夜の

被害卅萬圓

係員總動員で 復舊工事設計

廿六日の颶風に管内を荒し廻された平土木監督所では小林所長以下各係員總動員で善後策を構じ早くも復舊工事に着手する設計製作に大童の活動を續けて居るが同管内の被害は約三十万圓に達したが主なる被害箇所左の如くである

- △川部村綾川護岸三百米崩壊
- △植田町岩間海岸防波堤七十米欠潰
- △四倉海岸堤防六百米欠潰
- △田人村中山橋山田村藤木橋墜落
- △江名町長崎橋墜落
- △上遠野村道路二百間破壊
- △泉村地内藤原川護岸五十間崩壊

巨浪に翻弄された 三巴の漁船

激突に次ぐ激突

依然四名の行衛は不明 小名濱椿事詳報

昨報小名濱港内の惨事は廿四日以来の郡内各河川の氾濫に次ぐ氾濫に逐に水魔の跳梁するところとなりこの慘禍を見たものであるが本日にも到るも四名の行方不明者の屍體発見されず目下消防組築港事務所總出で

船坂東丸を巻き込むで三巴となつて木の葉の様に激突

進行中の二等車に 拳大の石を

投げ付けた犯人

廿六日午後六時頃内郷村宇高坂地内を通過中の上野發平着下り列車に二等車目がけて拳大の石を投げガラス窓硝子を滅茶々に破壊

又激突遂に 浸水沈没 瀕した北 敦賀の兩乗組員が坂東に乗換準備中十四名が巨浪に呑まれたが暗黒の海上に二時間漂流して十名は救はれ目下同町草野醫院で手當中行方不明者は

敦賀丸入夫下關市關後地 大島新藏(五)水夫香川縣 仲多度郡與島村大前豊 (三)開北丸水夫宮城縣石巻市門脇町六一須藤徳次郎(五)鹽釜小池賢(三)及び重傷者左の如くである

平驛ダイヤに 色變りな列車

トンダ荒しの餘波に 驛員が面喰ふ

今回の颶風は常磐線及平驛關係には被害を見なかつたが東北本線と新潟東京間が列車不通となつたので鐵道省は廿六日の東北本線上下急行を常磐線に廻し更に東京新潟間直通列車も常磐線から磐越東西を経て運轉し當分繼續實施する事になつたので平驛では普通ダイヤ

更らに飛躍 四倉の繭相場

前日よりも五十三錢高値

既報廿五日の初日取引から縣下の最高記録を破つた四倉繭相場は昨廿六日底知れぬ強氣を孕んで更らに前日の記録を突破し最高實に六圓四十三錢、最低五圓八十錢、馴六圓二十三錢、五十七掛と前日の平均相場より五十三錢の高値を見せ出廻も天候回復と共に百四十六貫に増加し惠比須須顔の郡下

磐女秋季球技 磐城

高等女學校の秋季球技大會は明廿八日午後一時より同校々庭に土岐、松浦、池田、三教諭審判の下に舉行される。▽箕輪一年▽庭球二年△排球三年▽鏡技四年

明日のラジオ

廿八日

報豫氣天

日も南東の風 強天氣次第に良くなる

今晚の部

- 新小學算術下巻取扱
- 清水甚吾
- 後六〇〇 子供の時間
- 合唱 J・O・A・K 唱歌隊
- 後六二五 基礎英語講座
- 岡倉由三郎
- 後七三〇 講演「科學界のトビツク」林噺
- 水夫謝敷宗賢(五)同小板熊次郎(五)韓仁壽(三)
- 後八〇〇 長唄「吾妻八景」吉住小三枝
- 後八二〇 ラヂオドラマ「秋晴れ」築地座連
- 後九〇〇 小唄 春日と香
- 後九一〇 ラヂオ小説「薬人形の婿」澤村田之助
- 後九三〇 時報ニュース 氣象通報 番組豫告

石城梨品評

けふ即賣賑ふ

既報石城郡農會主催で昨廿六日より平署會議室に開いた石城梨の品評即賣會は出品四百餘箱に達し盛會を極め同日午後から審査を行つた結果入賞者左の如く決定本廿七日即賣會を開いて賑つた

- (一等)内郷草野雅一 平窪金成雅義 同根本直一
- 下小川松本新 上小川鈴木ミツエ(二等)内郷草野
- 豊外十一名(三等)平窪松崎一外三十一名(四等)平窪根本安晴外五十名
- 平町 人事
- 回出 生
- △材木町四一 小川武氏二女弘子
- △紺屋町 織田末松(五五)さん
- △長橋町 當時石川郡石川町南町根本友吉(四九)さん

謹啓父末松儀永々病氣の處療養相叶ず死去致し候追て本日午後八時茶毘に付し明後二十九日午後一時自宅出棺大寶寺に於て佛式に依り告別式相營み申す可く生前辱知各位に乍略儀此段謹告仕り候

昭和十年九月廿七日

男 織田万治郎 織田時松



明治太平記

(上段及上段) (作) 寺島純史 (巻) 野口

第二百三十六回

開化の鬼 (十三)

「とまれ！」
その聲はウエルズにもあ
とに随ふ大志賀にもきき、覺
えがあつた。

この場合、お互の發する
言葉が端的で閃火のやうだ
いつものアイルランド訛り
ではなくウエルズの一語二
語も立派な日本語だ。

「イダレスの素浪人ウエル
ズ」
「なに？」
「男らしく勝負をしろ」
「どけい、おれは」

中央の黒装束を突のけや
うとしたがかへつて突がへ
された。

「卑怯だぞ」
「いや、野蠻人に用はない
どけい」
「ぬかしたな毛唐の野蠻人
ウエルズ、いまこそ、人斬
り青山良順の敵討だ。覺悟
をしろ」

「……」
おどろいたのはウエルズ
よりもその背後につづく大
志賀だつた。あの人斬り良
順が、たう／＼ウエルズの
毒牙にかゝつたのか……黒
装束の三人は、まさし、白

浪五人男の殘黨だ。中央の
が親方の天竺浪人にちがひ
ない。
「人斬り？ 青山良順など
知らぬ」
ウエルズはイダレス人ら
しく、我慢がならぬほど落



ひだ。青山良順まつたく知
らぬ」
「云ふなけだもの、イダレ
ス公使パークスの二代目の
らしやめん、おふくを知ら
ぬとはいはさぬぞ」
「え？」
「さア、そのらしやめんお
ふくこそ、われ／＼五人男
の一人、辨天小僧に疑せら
れた人斬り青山良順だ」
天竺の一言一句はあまり
にもさえてきこえた。

着拂つてをる。日本のどろ
ばうたちは氣がみぢかい。
「ぬかしたなこいつ……そ
れめんど臭い、やつてし
まへ」
天竺の號令一下で甲州屋
新三、木隠れ山田貢が左右
から白刃を抜いてつめよつ
た。

「……」
おどろいたのはウエルズ
よりもその背後につづく大
志賀だつた。あの人斬り良
順が、たう／＼ウエルズの
毒牙にかゝつたのか……黒
装束の三人は、まさし、白

「それならおふくしやん、
その青山といふびとか」
「どい！」
「いや、おふくしやん。男
ではない、うつくしいニッ
ボンムスメだ」
あの雪白の肌の持主、上
品で艶やかで典型的なニッ
ボン・ムスメが、どうして
黄いろい顔の偏平な男がし

た、やぶにらみのやうな眼
をした、多くの日本の男と
同じにみられよう。いや、
あの肌いぢめんに描かれた
うつくしい青刺の女を毛む
しやらな男だつたとは、た
とひ、それがほんとうにさ
うであつても信じたくはな
かつた。

「たといおふくしやんが男
であるといはれても、おれ
はあのひとをあくまで女と
信じる」
「まだ、てめえそんなこと
かぬかしてやがる、血のめ
ぐりのわるい奴だ。さあそ
んな詮索はどうでもよい。
今宵が人斬りの仇うちだ。
矢でも鐵砲でももつてか
つて來い」
天竺は苛立たしさうに半
ばまた呆れたといつた風に
相手をうながした。

磐城セメント會社特約店

久全屋商店

磐城平町五丁目 電話九番九九

- 良品廉賣に勝る商略なし
- 確實敏捷はの生命なり

味覺の秋を樂しみ得る

香氣の高い 松茸

料理を始めました

出前 迅速 錦水

電話四五四

吉田眼科病院

平瀬屋町 電話六八八番

醫學士 吉田久雄

御料理 折詰 仕出し

松茸料理を 始めました

平二番寮裏通り

魚清食堂

電話六三三

平二番寮裏通り

平層甜

電話六二四

お惣菜用 さつま揚

平町一丁目

不彦實

吉原揚

電話一四一番